



東京 YMCA

2013 4 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

講演録

絵本と子ども

「幼な子のことばの力について考える」



さとう ひでかず
佐藤 英和さん

1953年、河出書房に入社し児童書を編集。1966年に、こぐま社設立。『こぐまちゃん絵本』全15点、『11ぴきのねこ』シリーズ6点、『わたしのワンピース』『木を植えた人』など子どもたちに愛される絵本・書籍を出版。現在は同社相談役、公益財団法人東京子ども図書館監事、㈱教文館取締役。

東京YMC A午餐会で1月22日、こぐま社の佐藤英和さんに講演いただきましたのでご紹介します。子育てをめぐる不安なニュースが多い世の中にあっても、絵本を囲み、絵本に秘められた力を味わい、心豊かな時間を過ごしていただきたい、そう願っています。

子どもの好きな
本とは

私は、幼い子どもという楽しいんだもん」と言うだものは、本来お話を聞くだけです。

ようにして繰り返し読む本に、リリアン・スミスという人の『児童文学論』（岩波書店）があります。その中に、「私たちが普通のストーリーを読むときの心構え以上に、何か、つまり第六感のようなものを持つことをファンタジーは要求するのである」という一節があります。広辞苑によれば、第六感というのは、

の出会いをみていると、第六感で読んでいるとしか言えないがなのです。

大抵の大人たちが失ってしまっているこの第六感というものを、何とか取り返すことができないだろうかと考えて、私は自分が好きな本を日本版と海外版各20冊ずつ選んでみました。

（左枠参照）

せではなかったおじいさんとおばあさんが、ねこを飼うことによって幸せになったというお話です。しかも、100万匹ものねこの中で、もっともやせこけた、みずばらしいねこを飼うのです。他の100万匹のねこたちは、おじいさんが「一番きれいなねこはだれだね」と聞いたとき、「ぼくです!」「わたしで

みずばらしい、選ばれなかったねこをおじいさんとおばあさんが愛したんです。愛されるにふさわしくないねこは、愛されたときに、愛されるにふさわしいねこになった。そして、おじいさんとおばあさんは幸せになります。ねこが幸せをもたらしたんです。

ちは、言語化することはできないけれども、この本の中で「幸せをもたらすものは何か」ということを読み取っているのではないだろうか、私にはそう思えるのです。ですから私は、自分の選んだ20冊の中に、この本を入れました。

子どもたちのことばの力は、絵本の中に秘められている力をちゃんと感じ取っ

幸せとは何かを

幸せとは何かを 読み取る力

ン。理屈では説明がつかないが、鋭く物事の本質をつかむ心の動き。五感を超えるものの意一です。つまり、子どもたちは、第六感というもので絵本を読んでいる。理屈では説明できない、鋭く物事の本質をつかむ心の動きでもって本を読んでいるというんです。私は本当に衝撃を受けました。事実、子どもと絵本と

その中に、『100まんびきのねこ』という本があります。ワンダ・ガイクという人が書いて、1928年にアメリカで出版された本です。7か国語で訳され、日本では1961年に福音館書店から出て、2011年に74回目の印刷をしています。典型的なロンク

う作者が大好きで、彼女が生まれたミネアポリスまで行き、日記の翻訳もしました。彼女は15歳のときに父を亡くして非常に苦労した人で、絵の学校で本格的に勉強した人ではありません。この本は彼女が20代のときに出したものです。

どうしてこの本が子どもたちに喜ばれるのか。この本は、さびしくて幸

り、皆いなくなつてしまつた。しかし一匹だけ、その骨と皮ばかりにやせこけたねこは、けんかをせずに残つていた。おじいさんとおばあさんは、そのねこをきれいに洗つて、毎日ミルクを飲ませます。すると、丸々としたかわいいねこになつたというんです。そして、おじいさんとおばあさんは幸せになりました。

私は、考えに考えました。聖書には「心の貧しい人々は、幸いである」といふ言葉がありますが、ワンダ・ガアクがこれを大事にしたようには思えません。また私は、子どもたちが私と同じ読み方をしていても思いません。けれども、第六感で「よかつた」と思っているんです。子どもたちは「子どもがもう一

回読んで」という本があったら、何百回でも読んでやらなければならぬし、読んでほしいと思います。そのときに私たちも面倒くさいといわないで、その本のうちに何があるのだらうと思つて子どもと一緒に読んでいったら、きっと宝が見えてくると、私は信じています。(文・広報室)

私の好きな絵本

(発行年順)

【日本版 20冊】

- ◆ふしぎなたいこ (石井桃子文・清水昆絵・岩波書店)
- ◆きかんしゃやえもん (阿川弘之文・岡部冬彦絵／岩波書店)
- ◆かばくん (岸田衿子文・中谷千代子絵／福音館書店)
- ◆ぐりとぐら (なかがわりえこ文・おおむらゆりこ絵／福音館書店)
- ◆ふしぎなたけのこ (松野正子文・瀬川康男絵／福音館書店)
- ◆11ぴきのねこ (馬場のぼる文・絵／こぐま社)
- ◆だるまちゃんとてんぐちゃん (加古里子文・絵／福音館書店)
- ◆スーホの白い馬 (モンゴル民話 大塚勇三再話 赤羽末吉絵／福音館書店)
- ◆おんなじ おんなじ (多田ヒロシ／こぐま社)
- ◆わたしのワンピース (西巻茅子文・絵／こぐま社)
- ◆ぐるんぱのようちえん (西内みなみ文・堀内誠一絵／福音館書店)
- ◆しろくまちゃんのほっとけーき (わかやまけん絵／こぐま社)
- ◆11ぴきのねことあほうどり (馬場のぼる文・絵／こぐま社)
- ◆きつね森の山男 (馬場のぼる文・絵／こぐま社)
- ◆かえるがみえる (松岡享子文・馬場のぼる絵／こぐま社)
- ◆ぶたたぬききつねねこ (馬場のぼる文・絵／こぐま社)
- ◆くまさぶろう (森比左志文・油野誠一絵／こぐま社)
- ◆かみさまからのおくりもの (ひぐちみちこ文・絵／こぐま社)
- ◆かおかおどんなかお (柳原良平文・絵／こぐま社)
- ◆おひさま あはは (前川かずお文・絵／こぐま社)

【海外版 20冊】

- ◆ピーターラビットのおはなし (ヒートリクス・ホター／福音館書店)
- ◆100まんびきのねこ (ワグナー・ガアグ文・絵／福音館書店)
- ◆ぞうのババール (ジャン・ド・ブリュノ文・絵／評論社)
- ◆おかあさんだいすき (マージョリー・フラック文・絵／岩波書店)
- ◆はなのすきなうし (マンロー・リーフ文ロバート・ローソ絵／岩波書店)
- ◆チムとゆうかななせんちょうさん (エドワード・アデリャーニ文・絵／福音館書店)
- ◆いたずらきかんしゃちゅうちゅう (バージニア・リー・ハートン文・絵／福音館書店)
- ◆げんきなマドレーヌ (ペーメルマンス文・絵／福音館書店)
- ◆おさるとぼうしうり (エス・フィール・スロホト・キナ文・絵／福音館書店)
- ◆かもさん おとおり (ロバート・マックスウェー文・絵／福音館書店)
- ◆ひとまねこざるときいろいろいぼうし (H. A. レイ文・絵／岩波書店)
- ◆ちいさいおうち (バージニア・リー・ハートン文・絵／岩波書店)
- ◆ぼくにげちやうよ (マーガレット・ワイズ・ブラウン文 クレメント・ハード絵／ほるぷ出版)
- ◆もりのなか (マリー・ホル・エッツ文・絵／福音館書店)
- ◆てぶくろ (ウラナ民話エグナーニ・M・ラチョフ絵／福音館書店)
- ◆まりーちゃんとひつじ (フランソワーズ文・絵／岩波書店)
- ◆わたしとあそんで (マリー・ホル・エッツ文・絵／福音館書店)
- ◆どろんこハリー (ジャン・ジロン文・絵／福音館書店)
- ◆あおくとときいろちゃん (レオ・レオン文・絵／至光社)
- ◆時計つくりのジョニー (エドワード・アデリャーニ／こぐま社)

2012・7・1 佐藤 英和

We build strong kids, strong families, strong communities.
 YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

赤  三角

▼3月16日
(土)、グラ
ンチャ東雲の
1・2階にあ
る「しのめ
Y M C Aこど
も園」の卒園
式が行われ
た。昨年は開

名での卒園式であったが今年は54名の子とたちが巣立っていった。▼お父さんやお母さんをはじめ、先生、そして私たち地域として関わりをもつ者が、共に成長を祝い、凜とした子どもたちの姿に感動をした。

▼人間の人格形成に大きな影響を与える幼児期に関わるYMC Aの責任は大きい。YMC Aが成すべき大切な役割だと感じる。▼東京YMC Aでは年に一度「教育シンポジウム」を開催し、今年で7回を数えた。目的は、子育てに悩む親に、自信をもって子育てを楽しんでもらうこと。子どもを愛してもらうことである。▼このシンポジウムは、会員と自ら運営に携わることを志願したスタッフによって、資金集めから企画、実施までを行っている。▼YMC Aの主張を社会に発信しつづける方法は様々ある。行っている事業の中で、会員の方と一緒に行う活動や、メディアを通してなど。▼しかし、大切なのは、社会が今必要としていることを察知し、それに先駆的に取り組み、YMC Aの主張を発信していくことである。▼いつまでも変わってほならないその役割を、今後も果たしていく団体であり続けたい。

(グランチャ東雲館長 沖 利柯)

2013年度 東京YMCA事業・運営方針

使命明確に 事業の強化・安定目指す

【運宮方針】

2013年度は東京YMCA新中长期計画（財政再建計画）の2年目に当る。当初の計画を上まわる計画を策定したので、この年度計画を着実に実行していくことを中心的目標とする。さらに現行諸事業の改変、再構築を図りながら今後の東京YMCAのあるべき姿を見定めていく。

又、公益財団法人として市民社会形成と青少年の健全育成など使命に適う働きを促進すると共に、幅広い支援・寄付を受けることができる。

更に、東日本大震災の復興支援については石巻市、福島県を中心に全国のY M C Aとの協働の中で継続的な支援を進めて行く。

2013年度 運営方針 **重点事項**

- 1 持続可能な組織づくりと共に安定した事業運営を行う。
 - a. 2012年度決算で回復しつつある財政再建をさらに進めて年度収支差0円に向けて財政の執行をする。
 - b. 2015年度以降の中期計画を検討する。
- 2 公益財団法人としての働きを強化する。
 - a. F D委員会の答申を元に、使命に適う働きを模索しつつ、積極的に寄付金を募る活動を展開する。
 - b. Y M C A運動推進のため会員数の増加を目指す。
- 3 市民社会の形成に関わり、青少年健全育成を図る。
 - a. 通信制サポート校（YMCA学院高等学校）開校準備を行い、進路選択についてその1つを担う。
 - b. 東日本大震災の被災地の継続的な復興支援を、設置した石巻市拠点と福島県郡山市を中心に行う。
 - c. コミュニティを豊かにする働きに参与し、特にユースリーダーの育成に関わる。

以上

戦争が終わって 僕らは いかに
生まれた 戦争を知らず
に 僕らは育った
おとなになって 歩き始
める 平和の歌を うち
ずさみながら
僕らの名前を 覚えてほ
しい 戦争を知らない
子供たちさ (北山修
作詞)

戦争を叩かない世代／

戦争を知らない世代へ

もたちといわれました。
私自身も1952年生ま
れですので戦後世代で
す。若い時はギターでこ
の歌を歌っていました。
今の子ともたちは戦争を
知らないときえ知らな

です。2月の講師は東京YMCA元主事の池住義憲さんでした。池住さんは「自衛隊イラク派遣裁判」の原告の中心にいます。5月3日は憲法裁判の経過一部始終を語ってください。最終議論は日本を二分しています。2月の講師は東京YMCA元主事の池住義憲さんでした。池住さんは「自衛隊イラク派遣裁判」の原告の中心にいます。5月3日は憲法裁判の経過一部始終を語ってください。最終議論は日本を二分しています。

(総主事 廣田光司)

— 2013年度事業計画 —

定款に定めた目的を達成するために、以下の事業を行うことを計画する。

(1) 教育、スポーツ等を通じて人々の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業

- 幼児、青少年への体育プログラムを行い、生涯に亘って運動・スポーツを親しむ基礎を養う。
- 成人の健康増進を図るプログラムを展開する。

(2) 乳幼児・児童又は青少年の健全な育成と子育て支援を目的とする事業

- チャイルドケア事業を運営する。
- 乳幼児保育事業を行う。
- 子育て支援事業を行う。
- 児童館・学童保育事業を行う。

(3) 職業教育を通して勤労者の就労支援や福祉の向上を目的とする事業

- 専門学校を運営する。(ホテリエ育成、社会体育並びに保育専門従事者の育成)

(4) 国際相互理解教育や国際協力を促進し、国際交流のコミュニケーション能力育成を目的とする事業

- 国際交流のコミュニケーションとしての語学教育を行い、国際理解の基を築く。
- インターナショナルスクールを運営する。
- パートナーシッププログラムを検証し、発展させる（フロストバレー・バングラデシュ・北京・ハワイ島・ソウル）。
- 青少年の国際交流を促進させる。
- 在日外国人支援として生活情報を提供する。
- にほん語学院を設置し、在日外国人を含め、日本語教育を行うと共に幅広い文化交流を形成する。

(5) 生涯教育の場を提供し、豊かな学びと教養を得ることを目的とする事業

- 居場所プログラムを実施し、一人ひとりのいのちを大切にする。

(6) 地域社会の健全な発展を目的とする事業

- 地域社会との協働活動・協働事業を行う。
- 地域ネットワークの一員としての役割を担う。
- 奉仕者としての会員を中心とする地域奉仕・交流活動を行う
- 公益性事業進展のため国際協力基金、奨学基金、フレンドシップファンド及び、遺贈などを強化していく。

(7) 社会奉仕活動を実施することを目的とする事業

- 国際理解講座、ボランティアコーディネーター養成講座、市民講座、環境教育プログラムを行う。
- ボランティアによる活動を推進する。
- NPO、国際協力団体への施設提供を行う。
- 東日本大震災復興支援を継続し、特に石巻市に設置した拠点を活用していく。
- 福島県在住の家族、子どもらへのプログラム提供を継続して行う。

(8) 障がい者、及び高齢者の健康や福祉を増進することを目的とする事業

- 障がい児・者へのプログラムを行う。
- 高齢者介護予防プログラムを展開する。
- 発達障がい児へのプログラムを展開する。

(9) 自然環境の中で、野外・環境教育を伴う宿泊体験学習と余暇を豊かなものとする
ことを目的とする事業

- 諸団体の野外環境教育プログラムへの施設提供を行う。

(10) その他目的を達成するために必要な事業

- 東陽町センターの有効活用のため、空きスペースをNPO法人等他団体へ提供する。

2013年度 会員活動スケジュール

- ◆ 4月 チャリティーゴルフ（11日）
ユニークダンス（むかでワイズ協働、年2回、4月10月に開催）
- ◆ 5月 神田川船の会（グリーンワイズ協働、10月にも開催）
第11回会員大会（25日）
- ◆ 6月 第16回会員芸術祭（15、17-22日）
- ◆ 8月 夏まつり（31日）
- ◆ 9月 第27回インターナショナルチャリティーラン（木場公園、23日）
- ◆ 10月 第30回会員ソフトボール大会（14日）
- ◆ 11月 江戸城ファミリーウォーク（東京ワイズ協働、23日）
ソシアスフォーラム（会員協議会、16-17日）
- ◆ 3月 震災3周年行事
- ◆（時期未定）国際協力一斉街頭募金（渋谷）
第8回教育シンポジウム

ほかに、「早天祈祷会」「中国語聖書に親しむ会」「旧約聖書に親しもう」などを定期的に開催。また、各コミュニティセンターでは、「歌の広場」や各種ボランティア活動、バザー、クリスマス会など行事を予定。 詳細は会員部まで (tel. 03-3615-5568)

東京大空襲の 戦災慰霊碑を巡る



東京ひがしワイズメンズクラブ
ピースウォーク

「1945年3月9日夜 供養塔・平久橋慰靈碑・黒半からの東京下町への空襲では、一夜にして7万から8万人の尊い命が奪われた。私たちは、二度と繰り返してはならないこの出来事を語り継ぐために、江東区内にある戦災慰靈碑を巡るウォーキングを開催する」。この思いをスタートに、東京ひがしワイズメンクラブは、毎年ピースウォークを開催している。

今年は3月10日(日)午前9時、集合場所の東陽町センターに、事前申込と当日申込者合わせ60人が集まった。参加者に飲み物とお菓子を配り、記念撮影後4班に分かれ9時30分スタートした。今回は、西洲崎橋

供養塔・平久橋慰靈碑・黒船橋慰靈碑・越中島橋慰靈碑・永代寺観音像を巡り、汐浜運河沿いの白木蓮並木や古石場川親水公園など散策も交えたコースを、約2時間ウォークした。

参加者は江東区内在住の方が多いが、練馬区や習志野市から毎年参加される方もいる。戦災体験のある高齢者が多く、皆さん特別な思いを持って慰靈碑を巡っている。二度と起こしてはならない悲劇、平和を願う私たちは固い決意でこの活動をこれからも伝え続けていきたい。

(東京ひがしワイズメンズクラブ 金丸満雄)



バン格拉デシュYMCA<視察報告>

山手コミュニティーセンター 桑原もえみ

について打ち合わせを行ってきました。

エディルプールYMCAでは、様々な理由で十分な教育を受けることができない子ども達への教育支援や進学希望者への支援も行われている現場を見ることができ、子ども達の熱心に学ぶ姿、先生の優しく授業をする姿を見ることができました。

ヒリシリYMCAが運営するダハバラ診療所では、看護師が巡回して地域の保健増進の大切な役割を果たしていました。診療所は、お母さんたちの居場所ともなり、子育ての悩みなどを話し合い、地域全体で支えあっている様子が伺えました。またヒリシリYMCAでは、中高生が地域のため

に何ができるか考え語るプロジェクトも視察し、今後具体的なプロジェクトを作る成長期であることが分かりました。幅広い人達が参加者となり運営者となり自らの地域をもっと良くしていくと協力しながら歩んでいる様子がとても印象的でした。

安全な飲料水の確保が困難であったり、多くの子どもがマラリアに感染し苦しんでいたりと、解決すべき課題がある中でも、YMCAに集い、支えあい楽しく過ごしている表情をたくさん見ることができました。今後、子どもや青年の交流が行われ、バンクラデシユの魅力をさらに発信してこのパートナーシップを強めていければと思います。



学童保育クラブ支援 山手学舎

きました。今回は、夏に行
ったボランティアと同様に
「児童支援」をテーマに、
石巻の学童保育施設におじ
やしました。小学校低学
年の子どもたちを相手に、
私たちボランティアスタッ
フがスライム作りや割りば
し鉄砲作り、ピースアクセ
サリー作りなどの遊びを用
意して、一緒に楽しむかた
ちとなりました。このよう
に、遊ぶと同時に思い出の
物を作れる企画だったの
で、後で子どもたちが自分
の作った物をみて、楽しい
思い出を思い出すことがで
きればと思います。また、
私たちが用意した遊びが終
わった後に、ボールで遊ん
だりトランプをしたりと、
自由に遊ぶ時間もありまし
た。

石巻の子どもたちの楽し
そうな笑顔を見ることがで
きてよかったです。

（山手学舎一年 山田信）



脳刺激体操、区内に広める

介護予防スタッフ対象に講習会

江東区内で介護予防事業に従事しているスタッフを対象にした指導者養成講習会を、3月2日(土)、グランチャ東雲で開催した。この講習会は、グランチャ東雲で実施しているYMC Aの脳刺激体操(認知症予防の体操)が評価され、江東区より依頼を受けて開催したもので、区内の各施設で働く看護師、作業療法士、介護支援専門員などが、この体操の指導ができるようになることを目標としている。講習会には18人が参加し、脳刺激の理論編、実技編、指導法編に分けて受講していただいた。指導法編では、ペアを作り、指導者役と受講者役に分かれ、指導体験を繰り返した。最初は戸惑いが見受けられたが、回数を重ねていくうちに皆、自

福祉テーマに懸賞論文

全国から178の応募

公益財団法人愛恵福祉支援財団との共催による「懸賞論文・エッセイ」の募集も、今年で14回目となった。「豊かな福祉社会をつくるために」を本場に大事なものとは「をテーマに、学生の部、専門職の部、一般の部に分けて公募した。今回は都内近郊にとどまらず広く全国に向けて広報したところ、九州から東北にわたって178編の作品が寄せられた。

論文は、福祉の制度や仕組みへの提言、東日本震災を機に意識した「しあわせ」への思いや福祉観などさまざまだったが、いずれも福祉の心が込められたレベルの高いものだった。特に今年は、将来福祉の仕事に就くことを希望している高校生の応募が多く、個々の感性でとらえた「本場」大事なもの」の主張に頼もしさが感じられた。

2月23日(土)に東京Y WCAカフマンホールで開催された受賞者の表彰式では、一人ひとりから受賞の喜びやエピソードが語られた。また受賞作品をおさめめた『第14回懸賞論文受賞作品集』を配布した。

(会員部 戸坂昇子)



街頭募金

- **山手コミュニティーセンター**
3月10日（日）高田馬場駅前で、煙霧と強風の中、リーダーやメンバー、ワイズメン、高校生ボランティアなど約50人で呼びかけ、163,663円が集められた。
- **江東センター**
3月11日、14：46に館内一同で黙祷。降園時に募金と呼びかけ、47,178円が寄せられた。
- **西東京センター**
3月11日「震災支援を考える会&街頭募金」を実施。石巻のスタッフやボランティア参加者の報告を聞き、今後の支援について意見交換を行った後、国立駅前で募金を行い、102,417円が集められた。

大震災2年、各地の動き

震災から2年目となった3月、東京YMCA各都では街頭募金や礼拝などが行われたほか、石巻でワークキャンプも実施された。会員部では10日(日)、山手センターを会場に礼拝を行い、会員や一般など83人が参加。14時46分には黙祷を捧げた。古賀博牧師(日本基督教団早稲田教会)からは「互いの熱で」と題したメッセージをいたしたという話を引用し



公園予定地整備ワーク 国際ホテル専門学校

街道地区の公園予定地整備のワークキャンプを実施いたしました。広大な敷地の一部を農作物が作れる畑にすること、近隣の方の憩いの公園を造成するためです。卒業間近のホテル科2年生達は、大震災直後の4月に入學した学生達です。希望よりも不安が大きかった入學となりました。複数回ワークキャンプに参加してくれた学生もいます。誰かのために汗を流す行為は、学生自身の大きな成長の機会となりました。今回、障がいを持った子ととも、そのご家族とも接する機会が持てたことは学生達にとっても大きな収穫でした。ホテル学校はこれからも継続してワークキャンプを実施していこうと思っています。

（国際ホテル専門学校 副校長 小畑貴裕）

希望の風揚げ
町田YMC A

の活動や、リフレッシュ
キャンプ、郡山で行われた
子ども支援プログラムな
ど、この一年間のYMCA
の活動が報告された。ま
た、津波の犠牲となった来
国人数師テラー・アンダ
ーソンさんの教えずである
石巻の中学生2人が来場
し、昨夏にテラー先生の
故郷を訪ねた体験から、
「英語を勉強して国際交流
の役に立ちたい」と抱負を
述べた。

3月10日 町田市玉川学
園子ども広場で、大震災復
興支援「揚がれ！希望の風
2013」を行いました。
この催しは昨年に引き続き
行われ、北海道から沖縄ま
で全国のYMCA、ワイズ
メンスクラブのメンバ
ーが、大震災の起こった14時
46分、「希望の風」を一斉
に揚げ、大空に支援の糸を
繋げようという企画です。
（町田YMCA東日本大震災
復興興支援「希望の風揚げ
」実行委員長 伊藤幾夫）

会福祉協議会、町田ボラン
ティア連絡協議会をはじ
め、玉川学園地域の福祉団
体との協力関係が得られた
ことは大きな恵みであり、
参加者も60人を超えるなど
大変盛り上がりしました。閉
会時には、参加者全員で大
震災復興応援歌「花は咲
く」を合唱しました。

「ほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なので活動に参加したリーダーや1000円だった。」（新約聖書『コリント』学生5人も、それぞれ感想す）（広報室）